

史学委員会国際歴史学会議等分科会（第26期・第2回）議事要旨

日時：2025年1月11日（土）14:00～16:00

オンラインによる開催

出席者：小田中直樹、吉澤誠一郎、浅田進史、飯島渉、石居人也、北村陽子、
小関隆

議事の要旨

1. 前回議事要旨の確認

第26期・第1回の議事要旨に問題がないことを確認した。

2. 国際歴史学会議（CISH）に関する件

吉澤委員から、2024年10月25日に国際歴史学会議の総会が東京都内で開催されたこと、またその翌日に帝京大学八王子キャンパスで国際学術集会が開催されたことが報告された。続いて、浅田委員から、総会での決議事項や議論の要点についての紹介があった。

国際歴史学会議は、創立100年の記念会議を2026年8月にライプツィヒで開催する予定であり、日本国内委員会となっている本分科会も、パネルを立案してこれに応募することとした。100年記念会議のテーマ“The Past, the Present, and the future of History: Celebrating 100 Years of International Committee of Historical Sciences”を踏まえて、どのようなパネルを構想すべきかについて意見交換をおこなった。それを踏まえてパネルの組織などの具体的な作業を進めていくのは、吉澤・小関・浅田が担当することとした。

3. 日韓歴史家会議に関する件

飯島委員から、第24回日韓歴史家会議が2024年11月16日・17日に東京で開催され、有意義な意見交換がなされたことが報告された。主な内容は、「描かれた歴史—表象の歴史学をめぐって」をテーマとした3つのセッション、および「歴史家の誕生」と題する講演会であった。日韓基本条約締結から60年目にあたる2025年には、韓国で開催する予定である。

4. 公開シンポジウムの企画について

第 25 期に開催した公開シンポジウム「歴史学の「国際化」とは何か」の内容を更に発展させることを意図して、2025 年 7～9 月頃に公開シンポジウムを開催すべく、吉澤委員を中心に準備を進めることにした。

5. その他

(1) 2024 年 12 月 22 日に開催された日本学術会議第 193 回総会、および同日に発表された日本学術会議会長談話の内容について、吉澤委員および小田中委員から紹介があった。

(2) 次回の分科会は次年度(2025 年 4 月以降)の開催予定とする。